

## 卒業生寄稿

# 夢を抱き 夢を育み 夢を叶える

## —34年間を振り返って—

薬田 智志

宮城県大崎市立鳴子中学校 校長

### 1 はじめに

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、少しずつ懇親会等が開催されるようになってきた時期に北里大学から「ホームカミングデー」の御案内をいただきました。「久しぶりに相模原キャンパスを眺めてみたい」と思い参加を決意したところ、卒業生寄稿の依頼もあり驚きました。私の教職34年間を振り返りながら、後輩の皆様の少しでもお役にたてばと思い執筆することといたしました。最初に私の経歴を列記します。

- ・昭和41年 8月29日 宮城県玉造郡鳴子町（現在の大崎市鳴子温泉）で誕生
- ・昭和60年 3月 宮城県古川高等学校卒業（その後上京し新聞奨学生となり浪人）
- ・昭和61年 4月 北里大学獣医畜産学部畜産学科入学
- ・平成2年 4月 宮城県公立中学校理科教師新規採用、T中学校に赴任  
※全校生徒800名を超え1学年8クラスの大規模校。シンナー中毒・対教師暴力・器物損壊・不純異性交遊等が日常茶飯事。
- ・平成5年 4月 Y中学校に転任  
※各学年3クラスの小規模校。定期考査等5科目合計得点平均が400点を超える生徒集団。保護者が高学歴であり進学意識が高い。
- ・平成10年 4月 G中学校に転任  
※各学年3～4クラスの中規模校。授業抜け出し・他校間暴力・対教師暴力・不純異性交遊等が当たり前。
- ・平成12年 4月 W中学校に転任  
※転勤当初は1学年6クラス程度の中規模校だったが、8年目には1学年3クラスに減少。生徒指導を得意とする先生方が複数いたため、表面上は非常に落ち着いていた。
- ・平成20年 4月 K中学校に転任  
※各学年3クラス程度の小規模校。生徒指導事案が多発。職員一丸

- となって授業抜け出しの抑制と服装の指導を徹底。
- ・平成25年4月 N中学校に転任（平成27年4月から安全担当主幹教諭）  
※安全担当主幹教諭の他に学年主任、防災主任、進路指導主事、教務主任を兼務。不登校生徒が多く改善に向けて様々な取組を実施。
  - ・平成30年4月 N高等学校に教頭として昇任異動  
※N中学校の卒業生が約40%在籍するため、「薬田先生」と気軽に呼ばれる。生徒の80%が郡内の中学出身。
  - ・令和 2年4月 N中学校に転任  
※2度目の勤務。「魅力ある学校づくり」を推進するが新型コロナウイルス感染対応で十分に活動ができない。
  - ・令和 4年4月 M中学校に校長として昇任異動  
※今年の3月末に閉校。閉校に向けた準備で話合いの連続。校歌・校則・校章・制服・部活動・記念碑・記念誌・・・。
  - ・令和 5年4月 N中学校に転任  
※私と妻の出身地。3つの中学校を統合し、18年目を迎える。児童生徒の減少により、令和7年3月に閉校し、4月から小中義務教育学校として生まれ変わる予定。宮城県中学校体育連盟スキー専門部会長として来年度の東北大会開催を準備中。

## 2 仙台市内の中学校で過ごした10年

理科教師として採用され、平成2年から10年間を仙台市内の中学校3校に勤務しました。教育について専門的に学んだわけではありませんので、初任校では全てが新鮮でしたが、一方で全てが分からないことばかりでした。与えられた校務もどのように進めたら良いのかも分からず、先輩教師に尋ねながら進めました。仕事を終えると近くの食堂で先輩教師と一緒に夕食を食べながら、分からないことを質問し、私の仕事について細かく指導をいただきました。宮城県には宮城教育大学があります。多くの教師の出身大学であり、教育について専門的に学んできた方々ですので、私の仕事ぶりに歯がゆい思いをされていたのです。あるとき先輩教師から、「お前ができるのは生徒指導しかない。この職を続けるなら生徒指導で生きろ」と言われました。理科教師として頑張ろうと思っていた私にとっては、ショッキングな言葉でした。初任校でもがき悩みながら3年間を過ごし、次の学校へ転任となりました。

2校目は、学習意欲が高く、生徒指導事案がほとんど無い学校でした。私の授業においても、生徒は真剣に取り組み、分からないところは休み時間や放課後を使って毎日のように質問に来るのが当たり前の学校でした。時には、難関高校の入試問題を持参し、私が質問に即答できず、数日後に答えると、「先生、この問題は50分で解く問題の一部です。2日

も時間がありませんから」と生徒に言われる有様でした。

私の教職経験の中で1年生から3年生までの3年間を学級担任で持ち上がりができたのは、この学校だけでした。この3年間で私の指導観や教育観のベースができたのだと思っています。

3校目は、学校生活で前向きに取り組む生徒と、授業を抜け出し毎日問題行動を起こす生徒が共存する学校でした。

私の教育観を構築する上で大きく影響した3つの事例を以下に紹介します。

- 事例1 第39回日本学生科学賞・個人研究／環境庁長官賞受賞  
 第40回日本学生科学賞・個人研究／文部大臣奨励賞受賞  
 第41回日本学生科学賞・個人研究／文部大臣奨励賞受賞

中学物理

中学／文部大臣奨励賞・個人研究

渦の吸引力の研究



宮城県仙台市立●●中学校

指導教諭： 栗田 智志  
 研究者氏名： 3年

§1. 研究の動機

浴槽の栓を抜くと水の渦ができるが、この時浴槽の中心に吸い込まれていくことに気が付かず不思議に思った。またテレビで見かけた映像で、板切れや小石が勢いよく空中に舞い上がっていく様子に強い印象を受け、渦について興味を持った。いったいどのような力が渦を形成しているのか疑問に思い、渦の吸引力について調べようとした。

§2. 材料と装置

- 1) ビーカー (トール型各2個：500ml/300ml；通常型各1個：100ml)
- 2) マスシリンダー (1000ml)
- 3) マスビレット (各本：1ml/1.5ml/2ml)
- 4) チューブ (3本：直径13mm、長さ50cm)
- 5) 回転磁石式回転装置 (マグネチック・スターラー)

指導の要点

今回の研究「渦の吸引力の研究」は、生徒個人が行った夏休みの自由研究による作品である。研究者は日常生活において、浴槽の栓を抜いたときに渦ができることや、台風、竜巻などの自然現象においても渦ができることに興味を持ち、渦について調べた。この実験においては安定した渦をつくるのがどうしても不可欠であった。試行錯誤の末、回転磁石式回転装置 (マグネチック・スターラー) を使用することで安定した渦が得られるようになった。また、渦の様子を視覚的にかつ客観的に観察するために、油に中性洗剤を加え渦の殻を小さくすることでより細かな観察が可能になった。この工夫は、今回の実験成功への大きな鍵となった。さらに、渦の吸引力を定量的に測定するためにサイフォン原理を応用した。

このひらめきは、多くの文献を活用し、科学的な思考に基づいたもので研究者の努力の賜であることはいふまでもない。  
 本研究にあたり、指導教諭として特に指導・助言などは行っていない。研究者自らの自由な発想のもと、科学への強い興味・関心が研究者の探求心を駆り立てたものと思う。研究内容は中学生のレベルを超えた高度なものであるが、この研究を行う上で必要な基本的知識をたくさんの文献から習得し、試行錯誤の末に得られた本研究の成果は、高く評価されるべきであると考え。今後、指導者の一人として研究者の自由な発想を生かしたすばらしい研究が行われるよう心がけていきたい。

指導教諭 栗田 智志

第41回日本学生科学賞全集1999年3月発行より

夏休みの課題として「自由研究」を生徒に与えました。提出された作品の中から優れている作品を仙台市小中学校理科作品展に出品したところ、ある生徒の作品が毎年選ばれ、日本科学教育振興委員会と読売新聞社が主催する日本学生科学賞に3年連続で出品することができました。私は何も指導していません。提出された課題を出品しただけですが、「自由研究」を夏休みの課題にしなければ、提出された課題を作品展に出品しなければ全国で受賞することもなかったと思います。私自身には指導力が無くても、生徒が活躍できるチャンスを与えることはできることをこの経験から学びました。

## 事例2 生徒指導重大事案

右の新聞記事は、私が担任した生徒が被害者となった事件の報道です。この事件の第1発見者は、私でした。教職経験8年目を迎え、2度目の3年生を担当していました。被害者であるこの女子生徒は、英語が得意で、海外での活躍を将来の夢の一つに挙げていました。やせたり、太ったりを繰り返し時々休む生徒でしたが、3日続けて休んだので連絡を取って家庭訪問を試みました。

被害生徒の祖母が玄関先で対応し、2階の彼女の部屋に案内されました。彼女から少しずつ話を聞き出すと、男子高校生に脅され、売春を強要されたことが分かりました。学校に戻り、学年主任に報告し、教頭や校長

にも報告し、対応策を検討しました。私から母親に事件の内容を伝え、警察に被害届を提出するように伝えました。第1発見者は私ですので、参考人として警察署で6時間にわたり事情確認がありました。私はこの経験を通して、教師は生徒に寄り添い、小さな変化を素早く認知するためにも普段からの観察が大切であると強く感じたのです。

## 事例3 「丘の家こどもホーム」での研修

3校目に勤務している際、ある日突然校長から「来週の月曜日から金曜日まで、こどもホームに行って研修してきなさい。教師の将来にきっと役立つから」と言われました。研修は通常勤務後から20時までということで、内心は穏やかではありませんでした。

「丘の家のこどもホーム」とは児童養護施設で、親の離婚や病気、虐待など様々な事情から家庭での養育に困難をきたした児童に、適切な養護を行い家族の再統合を目ざす施設です。児童相談所を通じて受け入れ、家庭に代わりおおむね2歳から18歳までの子どもたちが職員とともに生活しながら地域の幼稚園や学校へと通っています。

初日、訪問すると1つの居住スペースに案内されました。そこには、4・5歳の男女、小学2年生の男と4年生の女、中学3年生の男、高校2年生の女の合計6名が生活してい

**交際あっせんして逮捕の男子高校生**

# 女子中学生に売春指示

仙 台

女子中学生に男性とデー  
トさせて金を稼がせ、その  
一部を受け取っていたとし  
て、児童福祉法違反の疑い  
で仙台北署に逮捕された仙  
台市青葉区の男子高校生(16)  
だが、この女子中学生に売  
春を指示して金を稼がせていた

春もさせていたことが、十  
疑い。  
五日分かった。高校生が中  
学生に売春させ、逮捕され  
たのは極めて異例。  
調べでは、男子高校生は  
仙台市内の女子中学生(16)に  
金を貸していたことが  
明らかで、返済させるため売春を  
指示して金を稼がせていた

市内のテレホンクラブを利  
用し、知り合った男性とい  
性がから受け取った金を男子  
高校生に渡していたとい

河北新報（朝刊）1997年10月16日掲載

る場所でした。高校生と中学生が夕飯の支度をしており、その間小学生や幼いこどもと一緒に遊んでほしいと職員の方に伝えられました。私と遊んでいると5歳の女の子が私の方に近づいてくる様子が見えました。手招きしてよぶと逃げていきます。再び近づいてくるので手招きするとやはり逃げていきます。私のそばにいた男の子が「あの子はしゃべれないから無理だよ。そっとしておいた方がいいよ」と教えてくれました。しばらくするとまた近づいてきました。アドバイスどおり視線を合わせないようにそっとしていると、私の背後に回りました。気付くと私の右頬の近くに手が近づいてきています。恐怖心を感じながらも他の子と遊んでいると、私の髭に触れてきたのです。彼女は私の髭に興味があったのです。翌日もその次の日も訪問の度に私の背後から髭を触ってくるのでした。最終日には、躊躇することなく髭を触ってきたので、「気持ちいい？髭好きなの？」と視線を向けずに話しかけてみました。すると、「うん」と小さな声で答えてくれました。何もできない私ですが、無精髭でさえ関わるきっかけができることを感じ、それ以来、私は髭を剃らずに今日まで教職を続けてきました。

### 3 宮城県北西部の中学校で「教諭」として過ごした15年

住まいを仙台市から宮城県の北西部にある大崎市に変えましたので、勤務先も通勤可能な中学校を希望して転勤しました。4校目となる中学校は、毎年研究指定を受けるような教育に力を入れている町立の学校でした。それまでは、仙台市の中学校で、学級担任をしながら生徒指導に力を入れて職務にあたっていましたので、教育に関する研究等は経験がありませんでした。赴任1年目は、「MAP（みやぎ・アドベンチャー・プログラム）」、2年目は「心を育む教育活動」、3～5年目は「学力向上フロンティアスクール」、6～8年目は「言語活動の充実」を経験することができました。毎年、全教職員が指導案を作成して研究授業を数回行うのでとても大変でした。また、7・8年目に学年主任を経験させていただきました。

5校目は再び生徒指導困難校でした。1年目は、2年生の担任（これが担任最後となりました）をしました。これまでの経験を踏まえて全職員で課題解決に取り組んだことにより、わずか2年で学校は落ち着きました。

6校目は過去に県駅伝4連覇を果たしたり、バレーボールやサッカー、体操、カヌー等で全国大会に出場したりしたスポーツが盛んな学校でした。また、この町は音楽にも力を入れており、「バッハホール」というコンサート施設が隣接し、町内の小中学校ではマーチングバンドの活動も盛んでした。この学校に赴任して2年後に主幹教諭に昇任しましたので教諭として25年務めたことになります。

この15年の間には、教師としての分岐点と考えられる3つの事例を紹介します。



## 事例1 長期研修員として宮城県総合教育研修センターへ

4校目に赴任して3年目の秋、校長先生から「長期研修を希望しないか？薬田先生は研修に行っても力を付けた方がいいと思う」と声を掛けていただきました。内心私は「教員として力不足だから研修に行かせようとしているのかな。自分でも力不足を感じるし・・・」という感覚でした。1日考えさせていただき、翌日に研修を希望する旨を校長先生にお伝えしました。願書に必要事項を記入して校長先生に提出すると、「研究領域は生徒指導ではなく、理科教育でいいのかな」と確認されました。「私は理科教師になりたくて教職に就きました。私が苦手とする理科教育の電気分野を研究したいと思います」と答えると、校長先生は笑みを浮かべて「がんばりなさい」と一言返してくださいました。平成16年4月から私は、宮城県総合教育センターに研修員として年間35日間（月に3回程度）通うことが決まりました。

苦手分野を克服するなどと思って教育センターに行くと、指導主事からは「普通は得意分野や専門性を高めるために研究するところだよ」と教えられ、35日間が恐ろしくなったことを今でも覚えています。私自身が苦手な電気分野で、実験データから計算によって答えを求めることを苦手としている生徒がどうしたら分かるようになるだろうか。生徒一人一人が自己の考えを述べながら考えを深め、「なるほどそうだったのか。分かったぞ！」という体験ができないものだろうかと考えて取り組みました。何とか悩みながらも以下の主題・副題の論文にまとめることができました。

**主題：実験器具の基礎操作の定着を図り、考えの練り上げを通して科学的な見方や考え方を養う指導の一試み**

**副題：－2年「電流とその利用」における基礎操作認定とワークシートの工夫を通して－**

## 事例2 最後の学級担任

5校目に赴任し2年生の担任を任されました。私は41歳でした。授業抜け出しや器物破損、喫煙等が連日のように行われ、教師達は疲れている雰囲気がありました。毎朝、生徒昇降口に立ち、登校する生徒に全職員であいさつをしました。また、授業が割あたっていない時間(空き時間)には教室前の廊下で仕事をしながら抜け出してくる生徒に声を掛け、教室に入るように促しました。

また、様子を観察していると、様々な問題行動を起こしている主犯格は、2年生であることが見えてきました。私の学級にも問題行動を起こす生徒が数名いましたので、まずは自分の学級から正常化に向けて取り組もうと考えました。家庭学習ノートを1冊準備し、毎日生徒に提出を求めました。「どんな学習でもいい。1ページ以上必ず書いて提出すること。悩みや相談事でも構わない」と説明し実施しました。当初は取組が悪く、「忘れた」と言って提出を拒む生徒もいましたが、A4版白紙を1枚渡し、帰りまで必ず出すようにさせました。段々とほとんどの生徒が必ず提出するようになり、コメントを書き加えなが

ら毎日確認しました。家庭学習の提出状況を学級だよりで毎日家庭にも知らせました。学級だよりには、学級での善行活動や係当番の様子等をたくさん褒めるように書きました。

「学級だよりを毎日書く」「家庭学習（自主学習）の様子に毎日コメントを書く」作業はとても大変です。時間も必要ですが生徒を十分に観察しなければ書けません。そこで私は、休み時間毎に担当学級に戻り、コメント記入や学級だよりのネタを探しました。休み時間毎に学級担任が教室にいると生徒に変化が現れます。友達が少なく周りとの関わりが少ない生徒やからかわれやすい生徒は、担任の近くに寄ってきます。からかっていた生徒や悪さをする生徒は教室から出て行きます。教室で過ごす休み時間が平和な時間になるのです。

私は、翌年から生徒指導主事を2年間任されました。学校を立て直すことを意識して取り組みましたが、「全職員による毎朝のあいさつ運動」と「空き時間の指導補助と巡視」で学校は大きく改善しました。生徒指導主事を別の方に引継、その後は学年主任を2年間任されました。

### 事例3 「なんだ？この学校！おかしいぞ！！」

6校目に赴任し1学年主任を任されました。これまでも学年主任の経験はありますので大きな不安はありませんでした。しかし、「総合的な学習の時間」の計画が準備されていないことに気付きました。昨年度の1学年主任に尋ねると、「総合的な学習の時間の計画は学年主任が計画をつくります。これまでもそうでした。」と言われ、昨年度の資料を見せてもらえないかを尋ねると、「どこにあるか分からないので見つけたら・・・」との回答でした。教務主任に尋ねると「あなたが好きなように計画すればいい。主任の自由な発想で！」との返答に驚きました。学校として3年間を見通した計画が無く、その時々のおもいで進めてきていたのです。

私は、「どうせ自由な発想で計画を立てていいのなら3年間を見通した計画を立て、学校としてのビジョンが見えるものにしよう」と考え計画を立てました。総合的な学習の時間の目標を「夢を抱き 夢を育み 夢を叶える」と銘打ち、活動テーマを「未来設計学習」として1年次の活動内容と評価についての詳細を作成しました。学年部会で活動単元の見通しをスタッフに持たせ、毎時間の略案に基づいて授業を進めるようにしたのです。作成には時間がかかりましたが、スタッフからは「負担が少ない」「出張や年休等で代わってもできる」などと好評でした。

3学年主任を担当した際には、安全担当主幹と進路指導主事を兼務しながら「未来設計学習」の活動内容と評価を作成しましたので時間的な余裕はありませんでした。しかし、生徒の確かな成長を促す学習活動にしたい思いと学校全体で「未来設計学習」を進めたいという思いが強く、最後まで作成することができました。

この取組は宮城県教育委員会が主催する「第1回志教育フォーラム」で実践発表の機会を与えていただきました。

#### 4 教頭・校長管理職となって

7校目の赴任先は、高校の教頭に昇任ということになりました。前任の中学校からわずか500m程のところにある学校です。前年度まで中学校の授業や部活動で指導していた生徒も進学する高校ですので、4年目・5年目を一緒に過ごす生徒もいました。中学校では、教頭も授業を持ちます。初めて高校の教頭として勤務するにあたり、「物理や地学の授業を持たされたらどうしよう」という不安な思いで引継に行きました。校長先生から「高校の教頭は授業を持たないよ」と教えられホッとしたのを今でもはっきりと覚えています。

高校勤務が初めて、教頭職も初めてですので二重の苦しみでしたが学びも多く、特に高校の職員組織において「所属部意識が高い」ことが印象的でした。中学校は一人一人に校務を割り振り、各自が校務を処理していますが、高校では教務部や総務部、生徒指導部、進路指導部等の各部に校務を割り振り、部長を中心に組織的に校務処理を行っており、中学校の働き方改革のヒントになると思えました。また、入試関係の運営や生徒指導の処理、県への事業計画と報告等、中学校では経験できないことを経験しました。

昨年度、新任校長として中学校に赴任しましたが、この学校は年度末に隣接校との統合が決定しており、閉校や統合に向けた話し合いと準備の毎日でした。統合校の校歌作成や制服、運動着の選定にも関わりました。一方で、自校の閉校に向けてPTA役員さんとの話し合いを重ね、記念碑や記念誌、閉校セレモニーの企画等も同時に進めました。本来の校務に加えた業務となるため、負担は大きく責任も重く感じました。地域住民のみなさんが統合に向けて賛成ではない状況で進めるわけですから多くの苦労がありました。校歌作成やタイムカプセルづくりの企画に生徒を加えて話し合ったため、生徒の表情が明るく前向きな意見が活発に出されたことがせめてもの救いでした。

今年度、10校目に赴任しました。この学校は、平成18年4月に3校が統合してできた中学校です。しかし、令和7年度からは地区の小学校3校と統合し小中一貫教育の義務教育学校となります。今年も統合や閉校に向けた話し合いを進めています。私を知る教師達は「閉校のプロだね」とか「閉校請負人、閉校校長」等と冗談を言う人もいます。所属職員の負担を軽減するためにも、先を見通した計画と実行、生徒の安全・安心を担保した教育活動を進めながら閉校・統合へ向けた準備を進めなければならないと実感しております。

#### 5 時代の移り変わり

これまで様々なことを記述しましたが、全て実体験に基づくものばかりで、専門的な知識や理論に基づくものが希薄だと感じると思います。体験から学びながら身に付けてきたことばかりですので、必ずしも正しい考えだとは思っておりません。また、これから教職の道に進む後輩のみなさんにとっては、私とは生きる時代が大きく異なることも頭に入れておく必要があると思います。私の初任当初の世の中は、バブル景気のまっただ中で



すが、携帯電話やパソコンを所持する人はわずかでした。先輩の先生方はワープロで文書作成をしていました。学校には職員用のパソコンが2台ありました。活用する方はほとんどいなかったので私物のように活用し、パソコンの操作を覚えました。やがてポケットベルを生徒も所持するようになり、PHS電話へと変化しました。ポケットベルやPHS電話の出現により生徒たちの動向も変化したように思います。通信機器の出現前は、学校間トラブルが非常に多く、社会的な問題にもなっていました。しかし、通信機器を通して他校生徒と友好的なつながりを持つようになった生徒はトラブルも少なくなり、校内も徐々に落ち着きました。一方、通信機器の活用が常態化したあたりから登校拒否（現在の不登校）生徒の出現が増えてきました。生徒を取り巻く環境の変化により、学校課題は変化するのだと思います。

現在、中学校では部活動の地域移行について様々な話合いがもたれています。地域移行の受け皿となるクラブチームやスポーツ少年団等の団体の数は宮城県においても地域格差が大きく、私が勤務する学校周辺部にはほとんど無い状況です。教師の業務改善の目的もありますが、これまで私が携わった部活動においてたくさんの生徒が救われたのも事実です。私は大学でアメリカンフットボール愛好会に所属しましたので、中学校の部活動において専門はありません。卓球やバスケットボール、ソフトボール、体操、陸上競技、水泳、フィギュアスケート等様々な部活動を担当しました。技術指導をすることはできませんでしたが、生徒たちは毎年のように県大会に連れていってくれました。体操や陸上競技では全国大会に引率することもできました。学校の学習において十分に力を身に付けることが困難な生徒にとって、スポーツや芸術等の学習以外での活躍ができる場は必要だと思うのです。活躍できる場を整え、提供するの大人の使命だと思います。私は33年にわたり宮城県中学校体育連盟スキー専門部の役員として大会運営に携わってきました。今年度はスキー部会長となり、令和6年度東北中学校スキー競技大会の準備・運営を委ねられています。学校統合・閉校準備と東北大会の準備・運営の業務を並行して進めなければなりません、生徒のため、選手のため、地域住民のために邁進する所存です。

## 6 最後に後輩のみなさんへ

教師を志すみなさんには、「教師になって良かった」「これは私の天職だ」と思えるような教師人生を歩んでほしいと思います。私の経験は紆余曲折しながら歩んできた教師人生の紹介でしたが、苦労ばかりではありません。卒業時に「先生、ありがとうございます」と言われただけでまだまだ頑張ろうとする気持ちが湧いてくるのもこの職業の特徴だと思います。教え子が大人になり、一緒に酒を飲み交わす時には、思い出話をつまみに語り合うことも幸せを感じる瞬間です。

私は、勤務校で1羽の鶏を飼っています。この鶏は、孵卵器で卵を温めて雛にしたものです。雛はすくすく育ち、雌鶏となりました。この寄稿が皆様に読んでいただいている頃

には卵を産み始める時期です。私の大学卒業論文は「産卵鶏のコレステロール代謝に対するキトサンの給与の影響」です。鶏を専門に学びましたので、生徒にも私の得意を見せたいと考え育てています。生徒は登校時や下校時に鶏に話しかけていきます。不登校傾向の生徒や人間関係を作れない生徒たちは休み時間にもやってきます。鶏がいる校長室前のスペースは、生徒たちの「居場所」になっています。不登校生徒の増加に伴い、個別最適な学びの保障や新規不登校生徒を生み出さない方策を考え、学校現場では取り組んでいます。私の得意を実践することが新規不登校生徒を生み出さない方策の一つになっていると思うと嬉しくなります。



生徒には「自分の得意を極めなさい。得意が無ければ得意を見つけることから始めなさい」と言っております。何でもある程度できる人を育てる教育はもう昔のことだと思うのです。世の中にYouTuberが現れたとき、教育現場では「職業」という位置付けはありませんでした。むしろ、「安定した生活ができないから」「儲かるわけがないから」等と言われていました。しかし、時がたち現代はどうでしょう。YouTuberも立派な職業の一つになっています。自分の得意を伸ばし、極めていけば必ず自信を持って人生を歩んでいけると私は思うのです。教師を志望するみなさんも自分の得意を極めて歩んでほしいと願います。

学祖 北里柴三郎先生はまもなく千円札として日常的に拝見できるようになります。先生は、卒業生が、自己の意思と学びを生かし、自信を持って社会で活躍することを望んでいるはずです。北里大学は生命科学を扱う大学ですから、生徒の命を預かる「教師」という職業にとって、最も大切なことを学び身に付けることができるはずです。大学生活の中で得意を身に付け、すばらしい教師として活躍されることを期待します。



体育館に掲示しているスローガン